

Weekly Report



作者の言葉
我が百合丘ロータリークラブの活動は、世界に目を向け、地域に根ざり、人々の心を繋ぐことに努めています。お互いの力を合わせ、社会の発展に貢献し、笑顔あふれる世界を目指してまいります。令和8年2月24日 大塚 正一

令和8年2月24日(火)
第2233回例会



◆ 会長/山口 篤 ◆ 幹事/玉井 智春 ◆ 会報/中島 眞一

● 例会日 毎週火曜日 12:30～13:30
● 例会会場 ホテルモリノ7F TEL 044-966-1300

● 川崎百合丘ロータリークラブ ホームページ
<http://www.kawasaki-yurigaoka-rc.jp/>

第2233回例会記録 令和8年2月24日(火) 31/46回

<点鐘> 山口会長

<ソング> 四つのテスト

<お客様ご紹介> 山口会長

麻生警察署長 岩本克行様、東京西RC 藤田茂樹様、川崎鷺沼RC 小川湧三様

<会長報告> 山口会長

1. 地区財団補助金奨学生1次選考通過
地区選考会
3/7(土)12:30～13:00 桜木町びおシティ

<幹事報告> 玉井幹事

- * 第3グループ会員合同交流会
4/16(木)18:00～ ホテルKSP 3F
内容：①国際ロータリー第2590地区2025-26年度
大塚正一ガバナー卓話
②懇親会 アメリカ第7艦隊の演奏(予定)

- * 当クラブ例会・案内
3/3(火) 財団学友卓話
3/10(火) 社会奉仕委員会報告予定
3/17(火) 定款細則による休会
3/24(火) インターアクト活動報告
3/31(火) お花見例会 遊輪 柿生店 18:00点鐘

- * 近隣クラブ例会変更・案内
川崎西RC、川崎麻生RC、川崎高津南RC

<ニコニコ委員会> 松野委員

東京西RC 藤田茂樹様→「お世話になります」。川崎鷺沼RC 小川湧三様→「お世話になります」。当クラブより、山口会長→「麻生警察署長岩本克行様、本日の卓話よろしくお願ひいたします」。玉井幹事→「東京西ロータリー藤田茂樹様、川崎鷺沼ロータリーの小川湧三様ようこそいらっしゃいました」。福家会員→「大矢紀先生、芸術院会員就任誠におめでとうございます。益々の御制作御活躍をお祈り申し上げます。2月11日に88歳を迎えました。あと5年は生きたいと思っておりますので、あと少々御厚誼をお願いします」。鴨志田敏彦会員→「父の葬儀の際はご参列、お手伝いありがとうございました」。以下、感謝をこめてニコニコへ。赤本会員、阿久澤会員、府川会員、土井会員、平岡会員、井上久会員、井上勇会員、石貝会員、鴨志田新会員、小島会員、小塚会員、森会員、永田会員、中島眞一会員、中島健児会員、大矢会員、親松会員、嵯峨野会員、左藤会員、嶋会員、白井克典会員、渡邊会員。

<出席委員会> 赤本委員長

	会員	出席	欠席	メーク	出席率
第2233回	49	20	29		59.18%
第2232回	49	27	22	7	69.39%

第2235回 3月10日 会員卓話
第2236回 2月24日 インターアクト活動報告
第2237回 3月31日 お花見例会

※諸事情により、スケジュールは変更になる場合があります。

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	28件	54,000円	975件	1,096,000円
財団	0件	0円	19件	350,000円
ベネファクター	0件	0円	1件	147,000円
米山	0件	0円	27件	327,000円

本日のプログラム

<招聘卓話> 麻生警察署長 岩本克行様

第27代麻生警察署長の岩本です。川崎百合丘RCの皆さまには警察行政各般にわたり深いご理解とご協力を賜り、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。簡単に自己紹介しますと、出身は石川県能登半島ほぼ中央に位置します七尾市(田鶴浜町)という所です。自然豊かな能登半島で少年期を過ごし、海の幸をたっぷり食べて育ちました。子供の頃は週に3日は魚が食卓に上りましたので、もっとハンバーグなど肉を食べたいと贅沢な悩みを持っておりました。

これまで能登は、大きな地震は起きない土地と言われてきました。現在86歳の母親は「能登は地震が起きん」と言い切っていたほどです。しかし、令和6年1月1日午後4時10分頃能登半島地震が発生しました。私は年末からその日の朝までマイカーを使って実家に帰省しており、翌日用事があったため午前9時に実家を発ったばかりでした。発災時、ちょうど東名高速道路富士川サービスエリアで休憩中、緊急地震速報で「石川県北部で大きな地震発生」と表示されました。母どころか親戚さえ全く連絡が取れず、数時間後にやっと母と連絡が取れました。建物の損害はなかったのですが、家具や棚が倒れ食器も割れてしまったとのことでした。すぐにでも引き返したい気持ちでしたが、大きな地震が起きた後は一週間は同規模の地震が起きる可能性があります。一旦神奈川に戻り母と連絡を取りつつ5日に実家に向かって出発しました。片付けなどできる限りのことをやり自宅に戻りました。家族が被災者になって思ったことは、1つ目は、震災への準備は環境や土地によって異なるということです。実家の大きな問題は水道の断水だった一方、電気は通っており食料も少し遠出すれば入手可能でした。地域によっては、道路が寸断され孤立状態になった集落もありました。備蓄する食料や水、発電機など、それぞれの家庭状況で準備するものが異なるのだと思います。2つ目は家屋が無傷の場合、避難所へ行くかどうかの判断です。

助けてくれる人もいますし、食料も確保できます。しかしペット問題やエコノミー症候群のリスクなどデメリットもあります。3つ目は、日ごろの訓練は大切ということです。母は戦前生まれで空襲に備えた訓練をやった記憶があるそうです。屋外で過ごした経験があるのは大切なことだと感じました。4つ目は油断しないことです。麻生区は災害が少ない土地ですが、内陸性の地震はどこでも発生します。精神的ショックからしばらく放心状態になると思います。心の準備という意味でも油断禁物と思いました。最後に、現在は様々な情報が簡単に入手できますが、誤情報もありました。こうした時に大切なのは町内会などの地域コミュニティでした。近所の人や避難所で配布した食料や水を持ってきてくれたり様々なことで高齢で一人暮らしの母を助けてくれました。本当に感謝しかありません。災害では「自助、共助、公助」が基本と言われます。どんなに時間がかかろうとも必ず我々に対応します。どうか落ち着いて「できることからやる」とご判断頂ければ幸いです。能登半島地震は未だ復興途中ですが、川崎百合丘RCをはじめ、日本中の方からの支援もあり能登出身者を代表して心より御礼を申し上げます。



<点鐘>

山口会長

